

HP Anywhere

Windows® オペレーティングシステム向け

ソフトウェアバージョン: 9.01

インストールおよび構成

ドキュメントリリース日: 2012年3月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2012年2月 (英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。

本製品には 'zlib' 汎用圧縮ライブラリのインターフェースが使用されています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

AMDおよびAMDの矢印記号は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Google™およびGoogle Maps™は、Google Inc.の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, Intel®およびXeon®は、Intel Corporationの米国およびその他の国の登録商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

Oracleは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

インストールおよび構成.....	1
目次.....	5
概要.....	7
HP Anywhereドキュメントライブラリ.....	7
HP Anywhereサーバーのインストール.....	8
プレインストール.....	8
インストールのステップ.....	8
ポストインストールと構成.....	12
構成の開始.....	12
Management Database - 管理データベース設定の構成.....	13
データベース構成 - OracleまたはMicrosoft SQL Server.....	14
管理者ユーザーの作成.....	16
HPLN Publisherの資格情報.....	17
HP AnywhereとLDAPの構成.....	18
HP Anywhere Lightweight Single Sign-Onの構成.....	18
LDAPの構成と認証.....	18
ステージング環境の構成.....	19
LDAPサーバーの外部リポジトリとしてのカスタマイズ.....	19
ユーザープロバイダーの構成.....	20
ユーザーオブジェクトクラスの構成.....	21
グループ検索.....	21
グループオブジェクトクラス (LDAPベンダに依存).....	22
グループ階層.....	23
高度な構成.....	23
LDAP Over SSL (LDAPS) の構成.....	24
ステージング環境の構成方法.....	24
HP Anywhereの役割のLDAPユーザーへのマッピング.....	24
構成の確定.....	25

WebサーバーおよびSSLの構成.....	25
GlassFishでのApache Webサーバーの設定 (オプション).....	25
mod_jkの構成.....	26
SSLの構成.....	26
バージョン9.01へのアップグレード.....	28
HP Anywhere サーバーのアンインストール.....	29
バージョン9.00のアンインストール.....	29
バージョン9.01からバージョン9.00へのロールバック.....	31
トラブルシューティングと制限事項.....	32
LDAPの問題.....	32
クライアントログインの問題.....	32

第1章

概要

このガイドでは、HP Anywhereサーバーをシステムにインストールして構成するプロセスと、追加情報を参照するための外部ソースを紹介します。

HP Anywhereドキュメントライブラリ

HP Anywhereには、次のガイドとリファレンスがPDF形式で付属しています。最新のHP Anywhereドキュメントは、HPソフトウェアマニュアルWebサイト (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>) から入手できます。このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。

ガイド	説明
HP Anywhereインストールおよび構成ガイド	HP Anywhere 9.0サーバーをインストールして構成するプロセスを説明します。 このガイドは、HP Anywhere DVDの Documentation フォルダーにあります。
HP Anywhere管理者ガイド	HP Anywhereサーバーをセットアップして、管理者がエンドユーザーのモバイルデバイスにミニアプリをダウンロードできるようにする方法を説明します。 このガイドは、HPソフトウェアマニュアルWebサイトにあります。
HP Anywhere Support Matrix Guide	HP Anywhereをインストールして操作するために必要なソフトウェアおよびハードウェア要件の一覧を示します。 このガイドは、HP Anywhere DVDの Documentation フォルダーにあります。
HP Anywhere Release Notes	HP Anywhereの出荷直前のニュースと情報を記します。 このガイドは、HPソフトウェアマニュアルWebサイトにあります。
HP Anywhere Open Sources and Third-Party Software Agreements	HP Anywhereに含まれるオープンソースおよびサードパーティコンポーネントのライセンスのリストを記します。 このガイドは、HP Anywhere DVDの Documentation フォルダーにあります。

第2章

HP Anywhereサーバーのインストール

ここでは、HP AnywhereサーバーをWindows 2008オペレーティングシステムにインストールし、データベース接続を構成する方法を説明します。

インストール手順は次の段階に分けられます。

- [「プレインストール」\(8ページ\)](#)。HP Anywhereサーバーアプリケーションのインストールの初期化とカスタマイズのステップ。
- [「インストールのステップ」\(8ページ\)](#)。HP Anywhereサーバーをインストールするステップ。
- [「ポストインストールと構成」\(12ページ\)](#)。データベースとHP Live Network Connectionを構成するステップ。

プレインストール

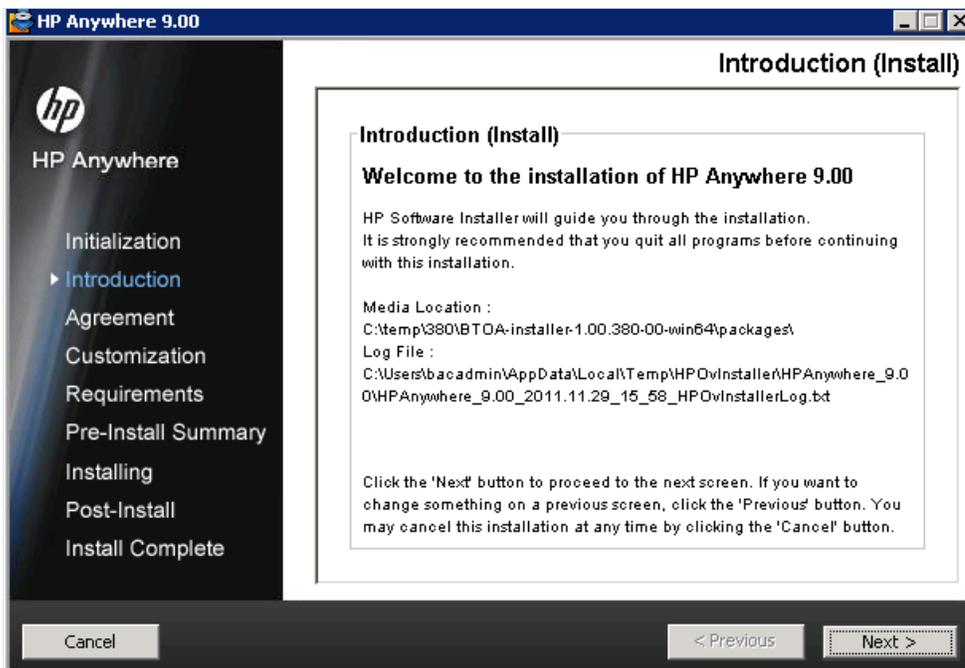
1. HP Anywhere WindowsインストールDVDを、インストールに使用するドライブに挿入します。
2. **HP_Anywhere_9.00_setup.exe**を実行します。
3. [ファイルを開く] 警告 ウィンドウが開いたら、そのウィンドウで **[実行]** をクリックします。
4. システムは検証チェックを実行し、現在のシステム定義に基づいてHP Anywhere 9.0を構成します。

インストールランチャーが実行されます。HP Anywhereインストールの開始ウィンドウが開きます。

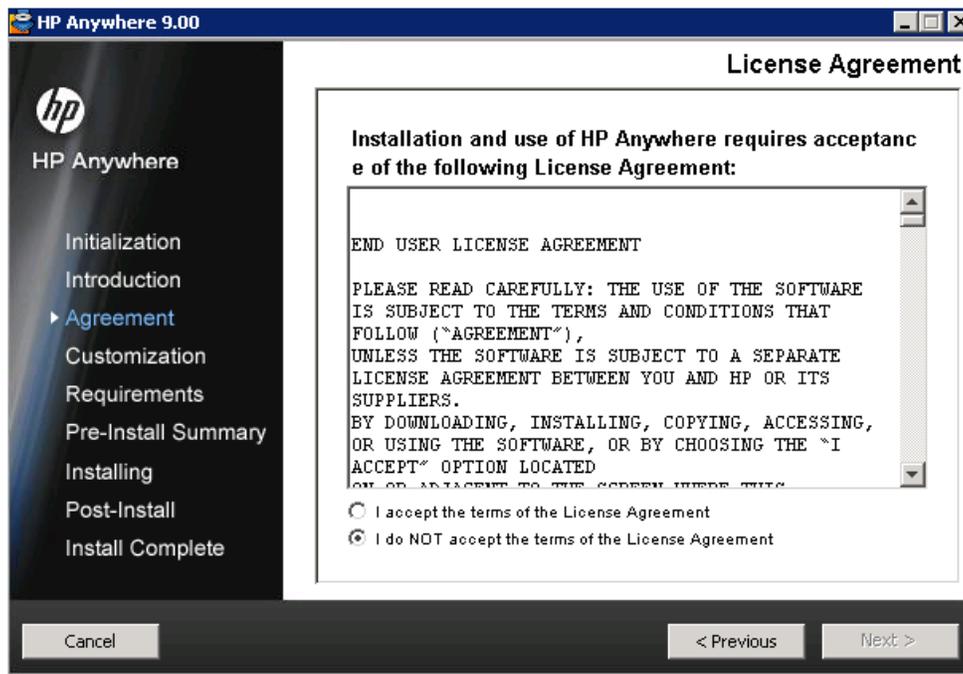
インストールのステップ

本項では、インストールウィザードの各ステップの詳細な説明を記します。

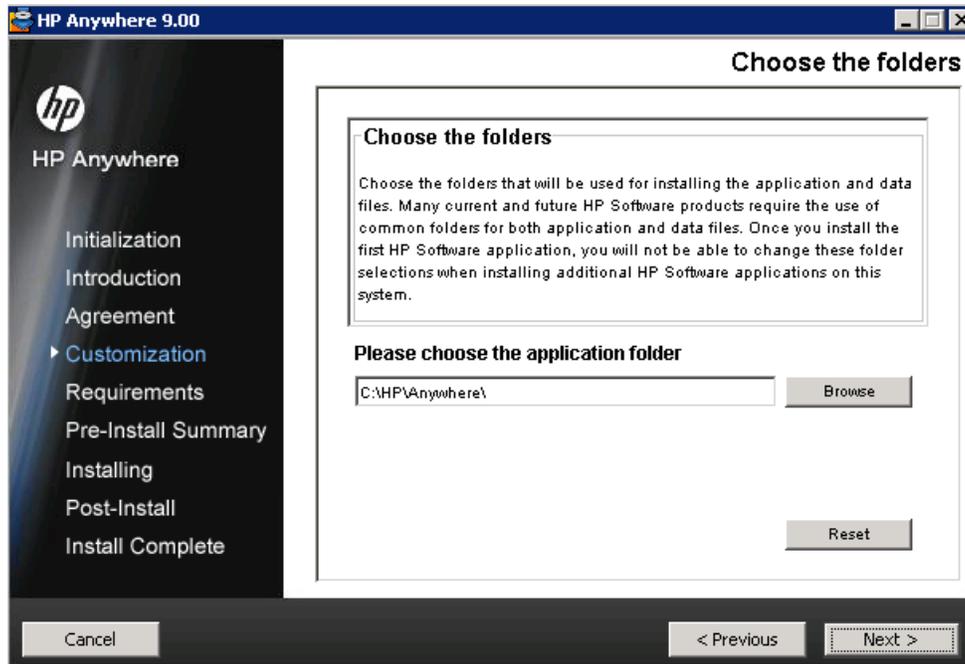
ウィザードの最初のウィンドウは、[Introduction] ウィンドウです。これには、インストールファイルとログファイルの場所が表示されます。



1. [Next] をクリックします。
2. インストールランチャーが終了すると、[License Agreement] ウィンドウが開きます。

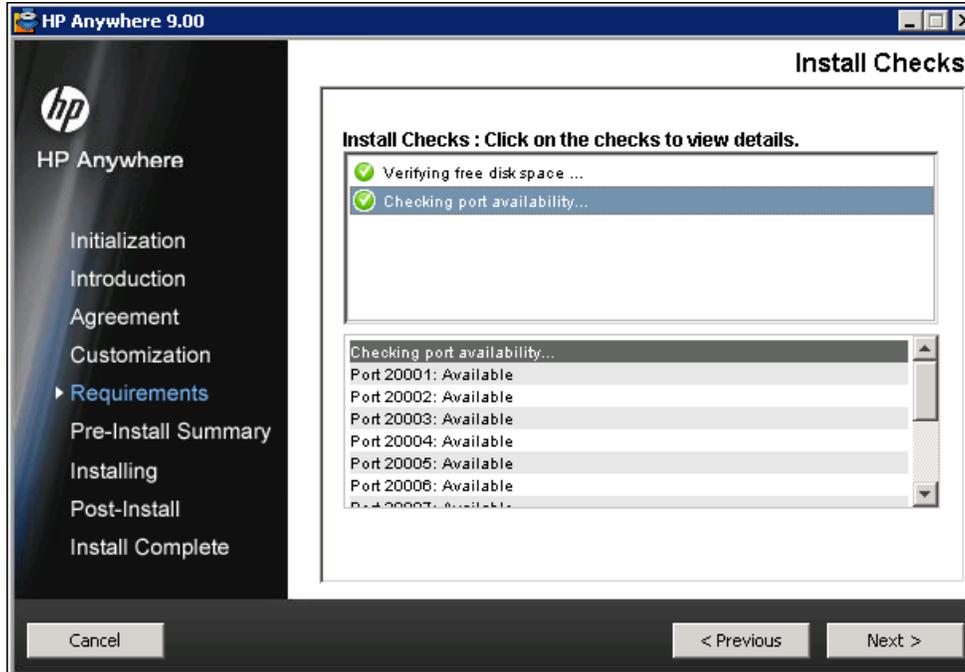


- ライセンス契約に同意して、[Next] をクリックします。
3. [Choose the folders] ウィンドウが開きます。



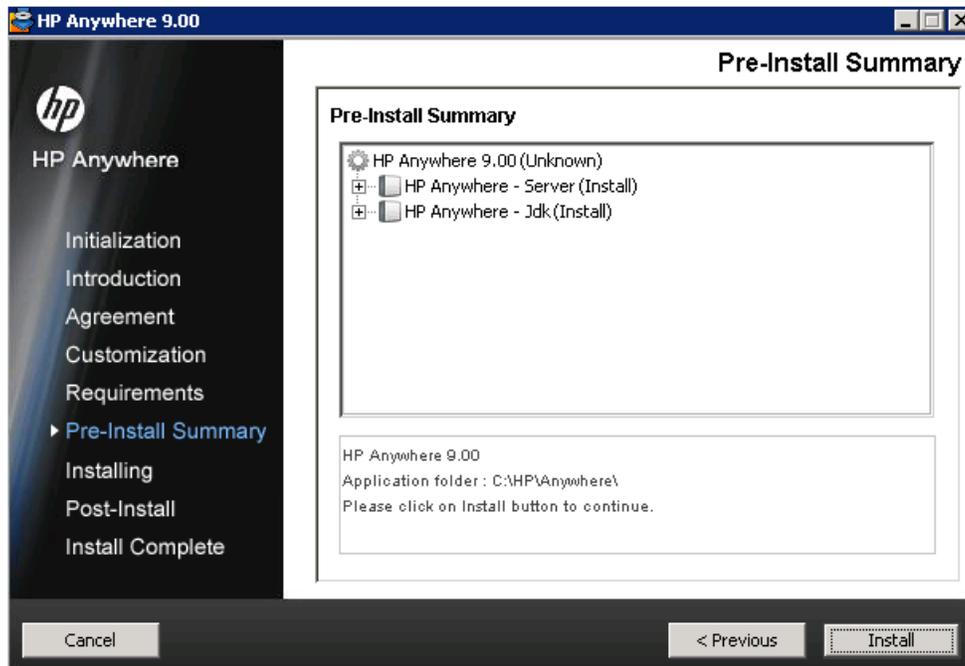
アプリケーションフォルダーを参照 (オプション) して、[Next] をクリックします。このフォルダーは、アプリケーションとデータファイルをインストールするために使用されます。

4. インストールウィザードは、インストールに十分なディスク容量があるかどうかと、必要なポートが利用可能で開かれているかどうかを確認します。

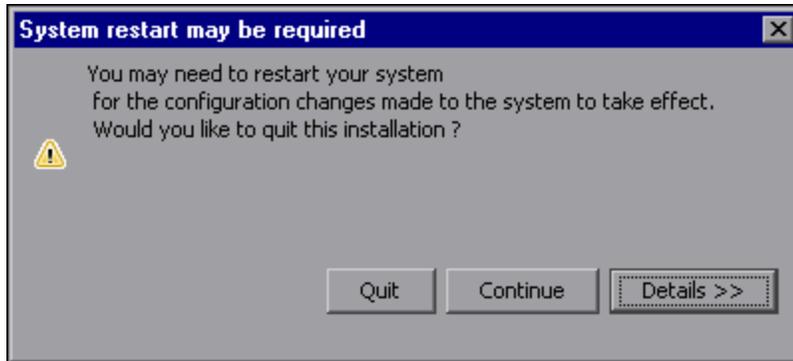


[Next] をクリックします。

5. プレインストール段階のサマリが表示されます。



6. [Install] をクリックして、インストールプロセスを開始します。HP Anywhereインストールの開始画面が表示されます。
7. [OK] をクリックします。以前にこのコンピューターからHP Anywhereをアンインストールした場合は、システム再起動メッセージが表示されます。



8.
 - [Details >>] をクリックして、インストール後に行われる構成変更を確認します。
 - [Continue] をクリックして、この段階では再起動せずにインストールを続けます。HP Anywhere Configuration Wizardが開きます。

第3章

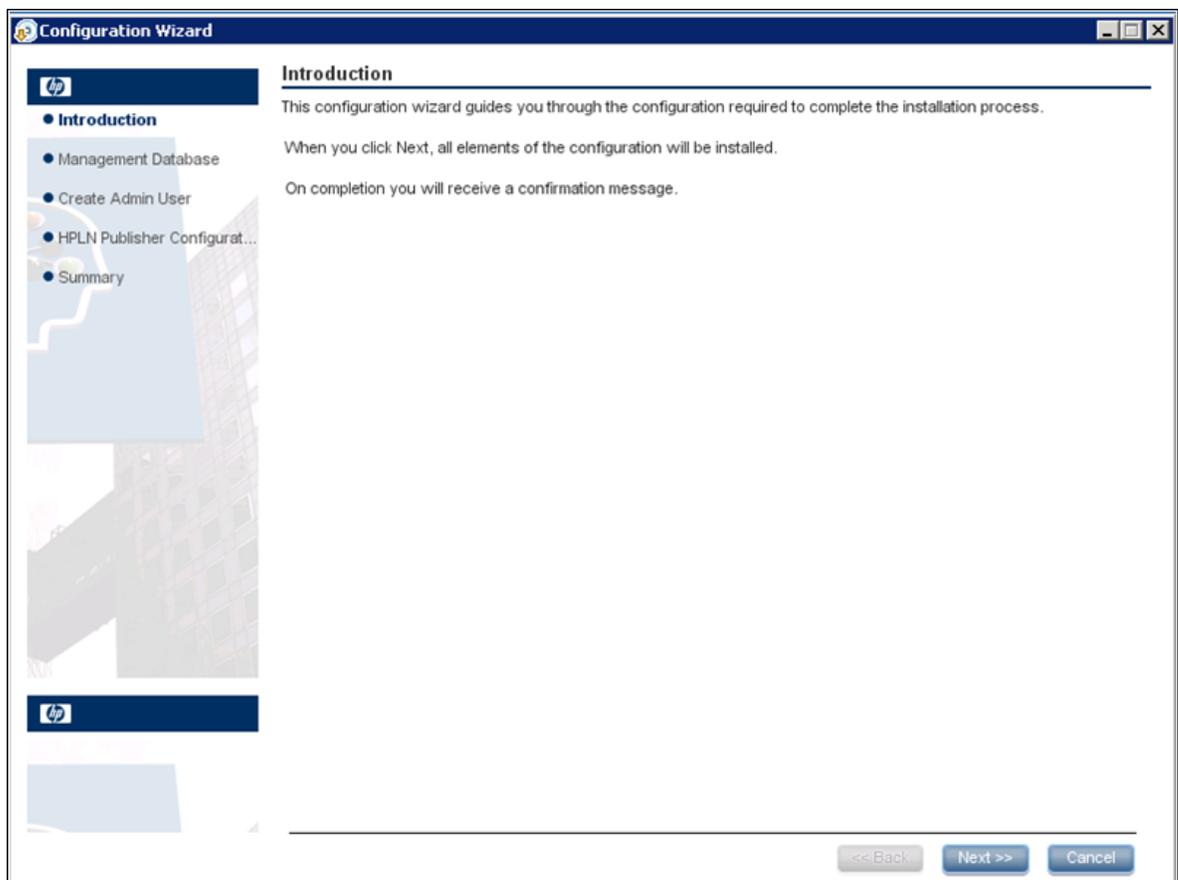
ポストインストールと構成

プレインストールウィザードが完了すると、ポストインストールの構成ウィザードが自動的に開始します。

本項では、ポストインストールウィザードの詳細を記します。ポストインストールウィザードは、HP Anywhereサーバーコンポーネントの構成手順をガイドします。本項の内容

- [「構成の開始」\(12ページ\)](#)
- [「Management Database - 管理データベース設定の構成」\(13ページ\)](#)
- [「データベース構成 - OracleまたはMicrosoft SQL Server」\(14ページ\)](#)
- [「管理者ユーザーの作成」\(16ページ\)](#)
- [「HPLN Publisherの資格情報」\(17ページ\)](#)

構成の開始

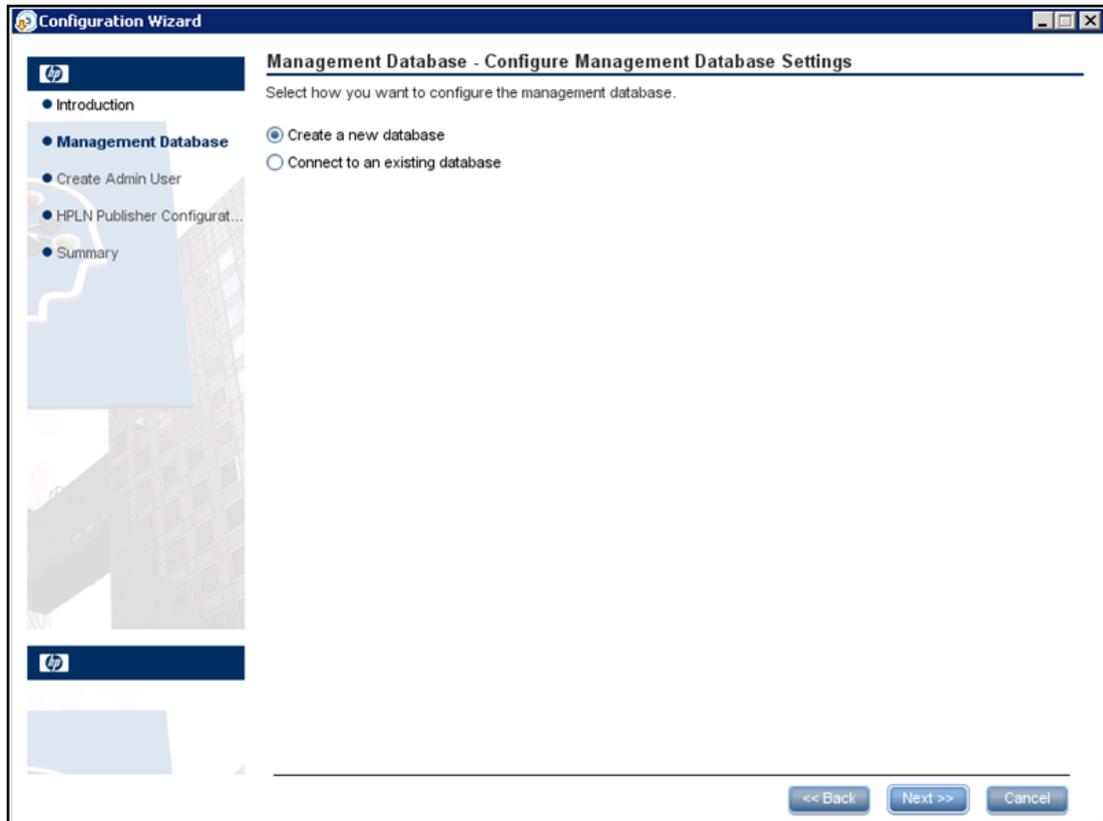


[Next] をクリックして、[Management Database] ウィンドウを開きます。

Management Database - 管理データベース設定の構成

本項では、管理データベースに新しいスキーマを追加したり、既存の管理データベースに接続したりする手順を説明します。

[Management Database] ウィンドウが開きます。



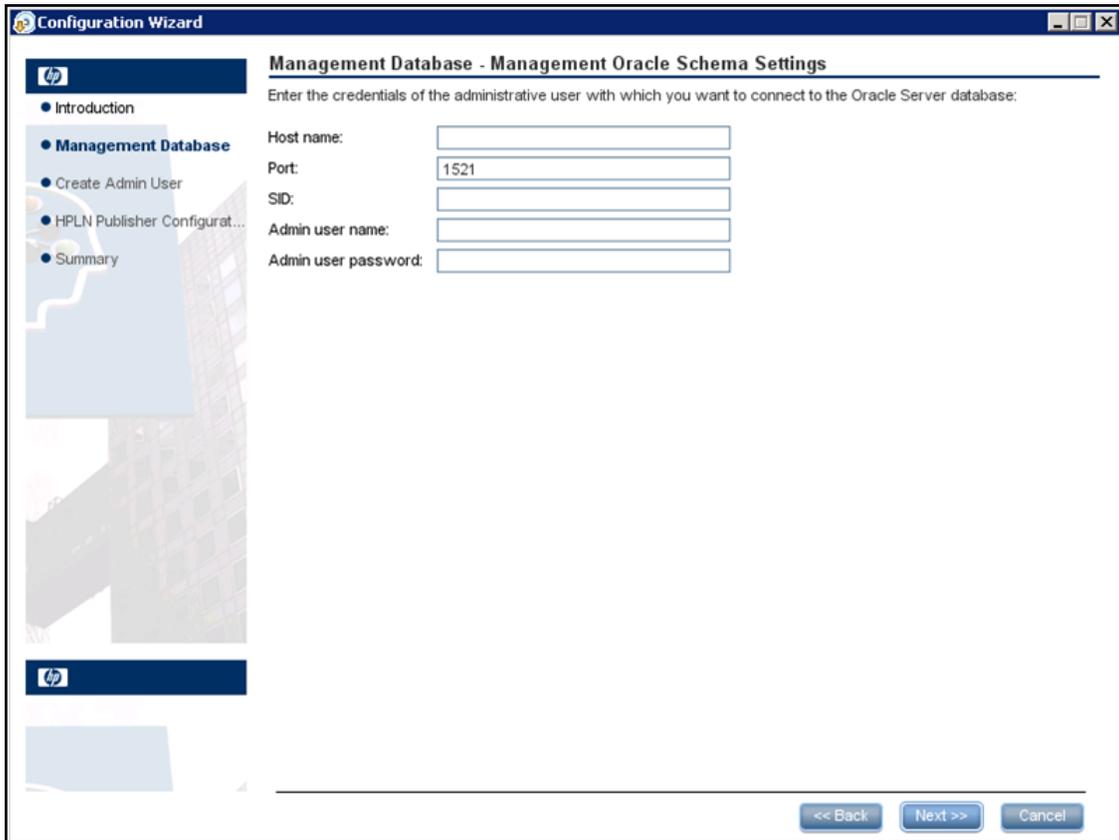
次のいずれかのオプションを選択します。

- Create a new database (新規インストールの場合)
- Connect to an existing database (既存のデータベースをアップグレードする場合)

データベース構成 - OracleまたはMicrosoft SQL Server

1. 新規データベースを作成する際には、使用するデータベースのタイプを [Oracle] または [Microsoft SQL Server] から選択し、[Next] をクリックします。
2. 各データベースタイプに対して、それぞれ異なるパラメータを入力する必要があります。次に示すフィールドに入力します。

Oracleデータベース



パラメーター	説明
Host name	Oracle DBサーバーが動作しているホストコンピューターの名前またはIPアドレス。
Port	サーバーへの接続に使用するポート番号。
SID	システム上の特定のデータベースを一意に識別するためのOracleシステムID。
Admin user name	データベースに接続する管理者の名前。
Admin user password	管理者のパスワード。

Microsoft SQL Serverデータベース

Configuration Wizard

Management Database - Configure Management Database Connectivity Settings

Enter connectivity and authentication parameters for the MS SQL Server database:

* Host name:

* Port:

* Database name:

SQL Server authentication:

* Login Name:

* Password:

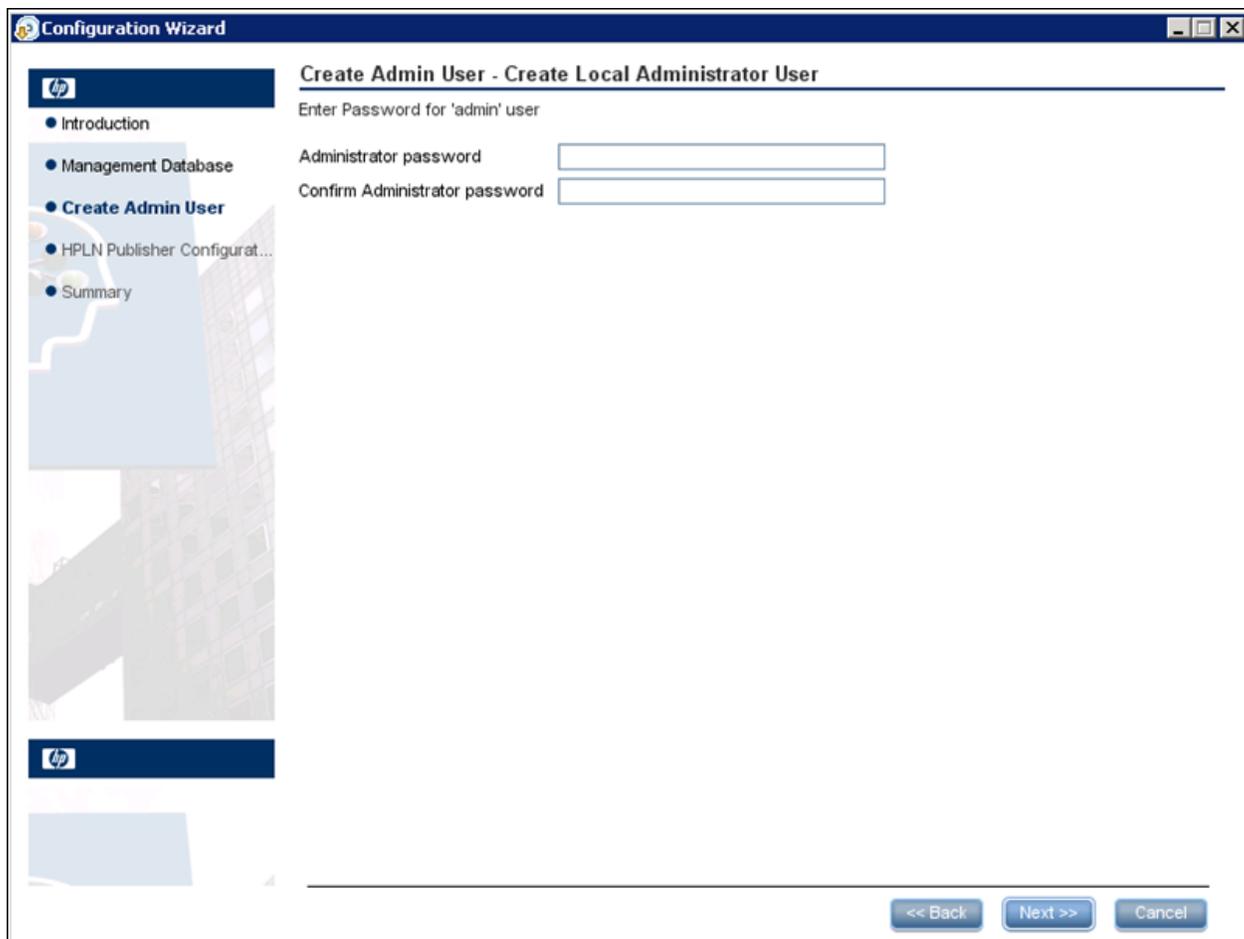
<< Back Next >> Cancel

パラメーター	説明
Host name	管理データベースをホストしているMS SQL Serverの完全修飾ドメイン名 (FQDN) またはIPアドレス。
Port	MS SQL Serverリスナーのポート。デフォルトポートは1433です。
Database Name	管理データベースの名前。 次のデータベース命名規則を使用することを推奨します。 <i>databasename_mng</i>
SQL Server authentication	
Login Name	データベースの作成または接続で使用するMS SQLログイン名。
Password	指定したユーザーのパスワード。

3. [Next] をクリックします。ウィザードは管理データベース構成の最終的なステータスを表示します。構成が正常に終了していない場合には、発生した問題の原因が表示されます。
4. [Next] をクリックして [Create Admin User] ウィンドウに進みます。

管理者ユーザーの作成

インストールプロセスの次の段階では、管理者ユーザーを作成します。管理者ユーザーの役割は、ミニアプリをダウンロードして構成することです。



The screenshot shows a 'Configuration Wizard' window with the title 'Create Admin User - Create Local Administrator User'. The left sidebar contains a navigation menu with the following items: Introduction, Management Database, Create Admin User (highlighted), HPLN Publisher Configurat..., and Summary. The main content area is titled 'Enter Password for 'admin' user' and contains two input fields: 'Administrator password' and 'Confirm Administrator password'. At the bottom right, there are three buttons: '<< Back', 'Next >>', and 'Cancel'.

1. 次のフィールドに入力します。

パラメーター	説明
Administrator password	管理者に割り当てられたパスワード。例: admin。
Confirm Administrator password	管理者パスワードを再入力します。

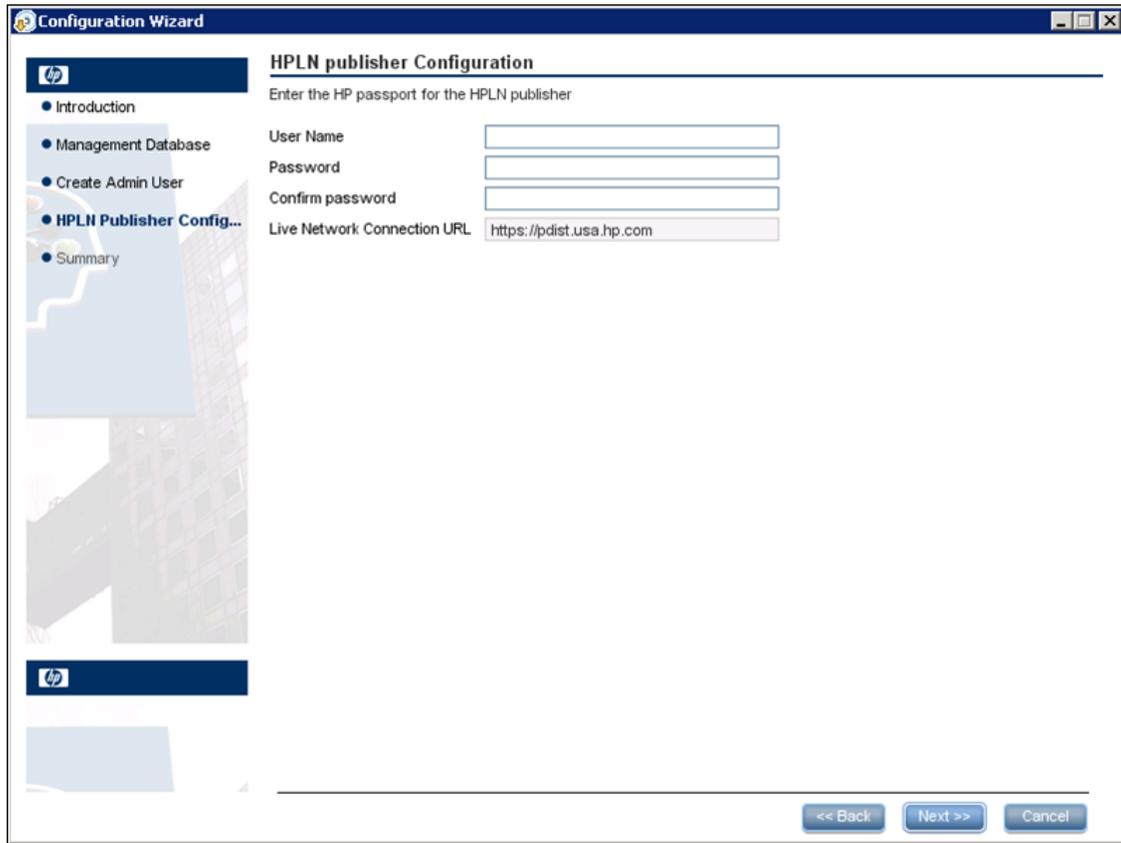
2. [Next] をクリックします。

HPLN Publisherの資格情報

インストールプロセスの次のステップでは、HP Live Network Connection (HPLN) 用のHP Passport資格情報を構成します。

HPLNは、HPLN Publisherにアップロードされるミニアプリの自動更新を可能にするために必要です。

HP Passport IDを登録するには、以下のWebサイトにアクセスしてください。[HP Passportの登録](#)



1. 次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
User Name	HP Passportのユーザー名
Password	HP Passportのパスワード
Confirm Password	HP Passportのパスワードを再入力

2. [Next] をクリックします。[Summary] ウィンドウが表示されます。構成ウィザードが正常に終了していない場合には、発生した問題の原因が表示されます。

HP AnywhereとLDAPの構成

本項では、Lightweight Single Sign-OnおよびLDAPをHP Anywhereで使用できるように構成するための詳細な手順を説明します。本項の内容

- [「HP Anywhere Lightweight Single Sign-Onの構成」\(18ページ\)](#)
- [「LDAPの構成と認証」\(18ページ\)](#)
- [「ステージング環境の構成」\(19ページ\)](#)
- [「LDAPサーバーの外部リポジトリとしてのカスタマイズ」\(19ページ\)](#)
- [「ユーザープロバイダーの構成」\(20ページ\)](#)
- [「ユーザーオブジェクトクラスの構成」\(21ページ\)](#)
- [「グループ検索」\(21ページ\)](#)
- [「グループオブジェクトクラス \(LDAPベンダに依存\)」\(22ページ\)](#)
- [「グループ階層」\(23ページ\)](#)
- [「高度な構成」\(23ページ\)](#)
- [「LDAP Over SSL \(LDAPS\) の構成」\(24ページ\)](#)
- [「ステージング環境の構成方法」\(24ページ\)](#)
- [「HP Anywhereの役割のLDAPユーザーへのマッピング」\(24ページ\)](#)
- [「構成の確定」\(25ページ\)](#)

HP Anywhere Lightweight Single Sign-Onの構成

Lightweight Single Sign-Onは、サーバー上にインストールされているすべてのHPアプリケーションに対して構成できます。

本項では、HP Anywhere LWSSOの初期化文字列をHP Anywhereサーバーとバックエンドの両方で構成する方法を説明します。

1. ファイル%**BTOA_HOME**%\glassfish\glassfish\domains\BTOA\config\conf\lwssofmconf.xmlを開きます。
2. テキスト**initString**を検索します。次のようなテキストが見つかるはずですが、**initString="This string should be replaced"**
3. テキスト**"This string should be replaced"**を、HP Anywhereと統合され、シングルサインオンを使用する、PPM、BSM、ALMなどのアプリケーションにあるのと同じ文字列に置き換えます。

注: サーバー上にインストールされているすべてのHPアプリケーションでLightweight Single Sign-Onを開始するには、初期化文字列がすべてのアプリケーションで同一である必要があります。どれかのアプリケーションで初期化文字列が異なっている場合、そのアプリケーションへのログインを認証するには基本認証が使用されます。

LDAPの構成と認証

本項では、LDAPを使用して認証を行うようにHP Anywhereを構成する方法を説明します。

LDAP認証を構成するには、次のことが必要です。

1. LDAPサーバーの外部リポジトリとしてのカスタマイズ
2. ステージング環境の構成
3. LDAPユーザーの適切な管理役割へのマッピング
4. LDAPによる認証の構成

ステージング環境の構成

本項では、ユーザーをデータベースに対して認証するために使用されるステージング環境を構成する方法を説明します。

ステージング環境は、ユーザーをHP Anywhereデータベースに対して認証しながら、LDAPからユーザー管理UIを通じてユーザーの表示と管理を実行できるように構成されます。

これにより、一時的な管理ユーザーとしてログインするとともに、実際のLDAPユーザーを表示して管理者役割にマッピングすることもできるようになります。

LDAPサーバーの外部リポジトリとしてのカスタマイズ

external-ldap.propertiesファイルには、LDAPカスタマイズパラメーターが記述されています。

LDAPサーバーに接続するには、以下の手順を実行します。

1. Apache Directory Studio LDAPブラウザーを<http://directory.apache.org/studio/> (英語サイト) からダウンロードしてインストールします。
2. LDAPブラウザーを開き、アプリケーションウィンドウの左下隅にある [Connections] タブで、[**New Connection**] ボタンをクリックします。
3. LDAPホスト名 (**Hostname**) とポート番号 (**Port**) を入力します。
4. Select the appropriate encryption level (**Use SSL encryption (ldaps://)**).
5. [**Check Network Parameters**] をクリックします。
6. [**Next**] をクリックします。
7. 次のいずれかの認証方法を選択します。
 - 認証なし: useAdministrator=false
 - 簡易認証: useAdministrator=true
8. [**Finish**] をクリックします。接続が自動的にテストされます。
9. SSLが選択されている場合、証明書信頼ウィンドウが開くことがあります。可能であれば、[**View Certificate**] を選択します。HP Anywhereが使用するJavaキーストアに証明書があることを確認します。

10. `external-ldap.properties`ファイルで次のようにLDAPパラメーターを更新します。

属性	説明
<code>ldapHost</code>	LDAPホスト名
<code>ldapPort</code>	LDAPポート番号
<code>enableSSL</code>	このパラメーターはTrueに設定する必要があります - LDAPに対してSSL接続を使用します。 SSL証明書をインポートする詳細は、「LDAP Over SSL (LDAPS)の構成」(24ページ)を参照してください。
<code>useAdministrator</code>	True:簡易認証を使用 False: 認証なし
<code>ldapAdministrator</code>	LDAPユーザー識別名 (<code>useAdministrator = True</code> の場合に定義)
<code>ldapAdministratorPassword</code>	LDAPユーザーパスワード (<code>useAdministrator = True</code> の場合に定義)

ユーザープロバイダーの構成

組織のLDAPプロパティに基づいて、`external-ldap.properties`ファイルの次の属性を更新します。これは、LDAPサーバーへの接続を構成します。

属性	説明
<code>usersBase</code>	ユーザー検索のためのLDAPベース識別名 (DN)。
<code>usersScope</code>	ユーザー検索のためのLDAP検索範囲。 <code>usersBase</code> の場所の下の検索をどのように行うかを定義します。 SCOPE_BASE: 検索空間には、 <code>userBase</code> が示す1つのエントリだけが含まれます。 SCOPE_ONE: 検索空間には、 <code>userBase</code> とその直接の子だけが含まれます。 SCOPE_SUB: 検索空間には、 <code>userBase</code> とそのサブツリー全体が含まれます。
<code>usersFilters</code>	ユーザー検索のためのLDAPフィルター

ユーザーオブジェクトクラスの構成

次のパラメーターは、LDAPベンダーまたはユーザーオブジェクトを表すカスタマイズされた実装固有のオブジェクトを定義するために使用されます。

ユーザー構成プロパティをLDAPサーバー構成プロパティにマッピングするには、**external-ldap.properties**ファイルの次の属性を、組織のLDAPプロパティに基づいて更新します。

属性	説明
usersObjectClass	ユーザーオブジェクトを表すLDAPオブジェクトクラス。
usersUniqueIDAttribute	ユーザーの固有IDのLDAP属性名。
usersLoginNameAttribute	ユーザーのログイン名のLDAP属性名。
オプション属性	
usersDisplayNameAttribute	ユーザーの表示名のLDAP属性名。
usersFirstNameAttribute	ユーザーの名のLDAP属性名。
usersLastNameAttribute	ユーザーの姓のLDAP属性名。
usersEmailAttribute	ユーザーの電子メールのLDAP属性名。
usersPreferredLanguageAttribute	ユーザーの言語のLDAP属性名。
usersPreferredLocationAttribute	ユーザーの地域のLDAP属性名。
usersTimeZoneAttribute	ユーザーのタイムゾーンのLDAP属性名。
usersDateFormatAttribute	ユーザーの日付形式のLDAP属性名。
usersNumberFormatAttribute	ユーザーの数値形式のLDAP属性名。
usersWorkWeekAttribute	ユーザーの週労働時間のLDAP属性名。
usersTenantIDAttribute	ユーザーのテナントIDのLDAP属性名。
usersPasswordAttribute	ユーザーのパスワードのLDAP属性名。

グループ検索

次のプロパティは、LDAPグループに対して実装される検索メカニズムを定義します。プロパティには2つのセットがあります。1つめは通常のグループ、2つめはルートグループに対するものです。

限定された数のグループだけを表示するには、ルートグループの検索条件を適切に制限します。ルートグループとルート以外のグループに対して同じ検索条件を使用することもできます。この構成は、全体のグループ数が少ない場合に推奨されます。

グループ検索構成プロパティの確認

グループ構成プロパティをLDAPサーバー構成プロパティにマッピングするには、**external-ldap.properties**ファイルの次の属性を、組織のLDAPプロパティに基づいて更新します。

属性	説明
groupsBase	グループ検索のためのLDAPベース識別名 (DN)。LDAP階層でこのDNの下にあるグループだけが、検索から返されます。
groupsScope	グループ検索のためのLDAP検索範囲。groupsBaseの場所の下の検索をどのように行うかを定義します。 SCOPE_BASE: 検索空間には、groupsBaseが示す1つのエントリが含まれます。 SCOPE_ONE: 検索空間には、groupsBaseとその直接の子だけが含まれます。 SCOPE_SUB: 検索空間には、groupsBaseとそのサブツリー全体が含まれます。
groupsFilter	グループ検索のためのLDAPフィルター。有効な値は、rootGroupsBase、rootGroupsScope、rootGroupsFilterだけです。
rootGroupsBase	グループ検索のためのLDAPベース識別名 (DN)。LDAP階層でこのDNの下にあるグループだけが、検索から返されます。
rootGroupsScope	グループ検索のためのLDAP検索範囲。groupsBaseの場所の下の検索をどのように行うかを指定します。 SCOPE_BASE: 検索空間には、rootGroupsBaseが示す1つのエントリだけが含まれます。 SCOPE_ONE: 検索空間には、rootGroupsBaseとその直接の子だけが含まれます。 SCOPE_SUB: 検索空間には、rootGroupsBaseとそのサブツリー全体が含まれます。
rootGroupsFilter	グループ検索のためのLDAPフィルター。

グループオブジェクトクラス (LDAPベンダーに依存)

次のプロパティは、LDAPベンダーまたは静的グループを表すカスタム実装固有オブジェクトを定義するために使用されます。カンマで区切った複数のオブジェクトクラスがサポートされます。このシナリオでは、ユーザーは対応するカンマで区切った属性名を定義できます。

グループ構成プロパティをLDAPサーバー構成プロパティにマッピングするには、**external-ldap.properties**ファイルの次の属性を、組織のLDAPプロパティに基づいて更新します。

属性	説明
groupsObjectClass	グループオブジェクトを表すLDAPオブジェクトクラス。
groupsMembersAttribute	グループのメンバーのLDAP属性名。この複数値属性は、静的グループのメンバーの完全な識別名 (DN) を含みます。
オプション属性	

属性	説明
groupsNameAttribute	グループの一意の名前のLDAP属性名。ほとんどのデフォルトLDAP実装では、この属性はgroupsDisplayNameAttributeと同じです。
groupsDisplayNameAttribute	グループの表示名のLDAP属性名。ほとんどのデフォルトLDAP実装では、この属性はgroupsNameAttributeと同じです。
groupsDescriptionAttribute	グループの説明のLDAP属性名。この属性にはグループの説明が含まれます。
enableDynamicGroups	動的グループを有効にするブール値属性。この属性の値がtrueの場合、動的グループが検索されます。なお、非常に大きい動的グループのメンバーを列挙するには時間がかかることがあります。
dynamicGroupsClass	動的グループオブジェクトを表すLDAPオブジェクトクラス。
dynamicGroupsMemberAttribute	動的グループのメンバーのLDAP属性名。この属性には、LDAP検索URLが含まれます。このLDAP検索URLから返された値は、動的グループのメンバーと見なされません。
dynamicGroupsNameAttribute	動的グループの一意の名前のLDAP属性名。ほとんどのデフォルトLDAP実装では、この属性はdynamicGroupsDisplayNameAttributeと同じです。
dynamicGroupsDisplayNameAttribute	動的グループの表示名のLDAP属性名。ほとんどのデフォルトLDAP実装では、この属性はdynamicGroupsNameAttributeと同じです。
dynamicGroupsDescriptionAttribute	動的グループの説明のLDAP属性名。この属性にはグループの説明が含まれます。

グループ階層

グループ階層属性は、HP AnywhereがLDAPサーバーグループ階層情報に関連付けられるかどうかを定義します。

属性	説明
enableNestedGroups	入れ子になったグループのサポートを有効にします。入れ子になったグループのサポートを無効にした場合、グループのサブグループは検索されません。
maximalAllowedGroupsHierarchyDepth	グループ階層の最大の深さ。このレベルより下のグループは検索されません。

高度な構成

高度な構成属性は、LDAP接続の微調整に使用されます。

属性	説明
ldapVersion	LDAPプロトコルのバージョン。可能な値は次のとおりです。 3 (デフォルト) 2 (古いバージョンのLDAPの場合)
baseDistinguishNameDelimiter	ベースDN区切り文字 。ユーザーまたはグループまたはユーザー検索で複数のベースDNを入力する際に構成で使用される記号。この記号は、この構成で使用するベースDNの一部には使用できません。ベースDNの一部にこの記号がある場合、デフォルト値を別の記号に変更してください。
scopeDelimiter	スコープ区切り文字 。ユーザーまたはグループ検索で複数のスコープを入力する際に構成で使用される記号。この記号は、この構成で使用するスコープ名の一部には使用できません。スコープ名の一部にこの記号がある場合、デフォルト値を別の記号に変更してください。
attributeValuesDelimiter	ユーザーまたはグループの複数の属性を入力する際に構成で使用される記号。この記号は、この構成で使用する属性の一部には使用できません。属性の一部にこの記号がある場合、デフォルト値を別の記号に変更してください。

LDAP Over SSL (LDAPS) の構成

In order for HP Anywhere to work with LDAP, you must enable it to run over SSL (LDAPS).

- LDAPサーバー証明書をキーストアにインポートします。

```
%BTOA_HOME%\jdk\bin\keytool -import -file <証明書ファイルのパス> -keystore "%BTOA_HOME%\jdk\jre\lib\security\cacerts"
```

ステージング環境の構成方法

本項では、%BTOA_HOME%/glassfish/glassfish/domains/BTOA/config/confディレクトリにあるファイルについて説明します。

1. **bsf.properties**ファイル内で、次のプロパティを設定します。
 - personalization.provider=EXTERNAL
 - users.provider=EXTERNAL
 - groups.provider=EXTERNAL
 - external.uum=true
2. HP Anywhereを再起動します。

HP Anywhereの役割のLDAPユーザーへのマッピング

次の手順を実行して、LDAPユーザーに役割を追加します。

1. Management UIを開きます。 **http://<url>:<ポート>/bsf**。
2. 一時的な管理ユーザー(名前: **admin**)で、ポストインストール時に管理者が構成したパスワードを使用してログインします。
3. **[User Management]** セクションで、**[Search Users]** を選択し、LDAPユーザーを検索します。
4. 次の役割をユーザーに追加します。

役割	目的
Admin	HP Anywhere管理コンソールにログインするため。
BSF_Admin	ユーザー管理UIおよびBSF管理UIにログインしてマッピングを実行するため。
Tester	アプリケーションをすべてのエンドユーザーに公開する前にテストするため。

構成の確定

この段階で、HP Anywhereを再起動して、構成の設定を適用する必要があります。

その後、LDAP資格情報を使用してHP Anywhereにログインします。

WebサーバーおよびSSLの構成

本項では、インターネットへのセキュアなアクセスを可能にするApache Webサーバーの設定と、Webサーバーとクライアントおよびアプリケーションサーバーとの間で使用するSSLの構成について説明します。

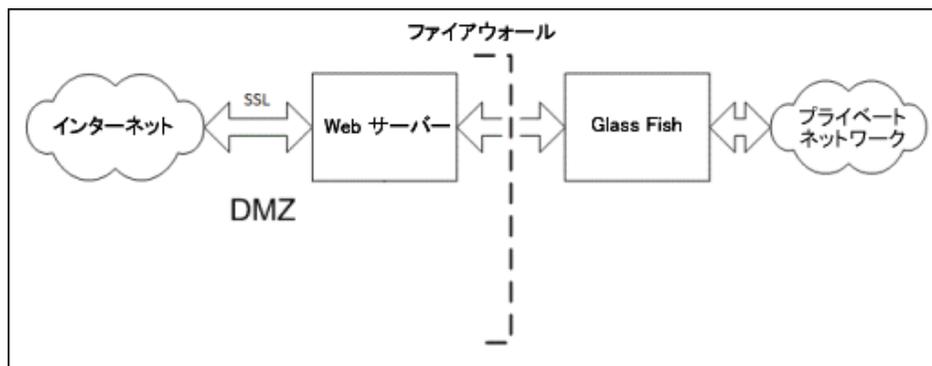
本項には次の内容が含まれます。

- [「GlassFishでのApache Webサーバーの設定 \(オプション\)」\(25ページ\)](#)
- [「mod_jkの構成」\(26ページ\)](#)
- [「WebサーバーおよびSSLの構成」\(25ページ\)](#)

GlassFishでのApache Webサーバーの設定 (オプション)

インターネット上のモバイルデバイスからHP Anywhereへのセキュアなアクセスを可能にするには、すべての要求をGlassFishにリダイレクトするWebサーバーをインストールする必要があります。このWebサーバーはDMZ内に置かれており、クライアントからWebサーバーへの向きのSSL接続だけを許可するリバースプロキシとして動作します。

次の図は、GlassFish上で構成されたWebサーバーを示します。



mod_jkの構成

Apache Webサーバーは、いくつかのモジュールから構成されています。各モジュールはそれぞれ異なる機能を果たします。

Webサーバーとアプリケーションサーバーとの間の通信を担当するモジュールは、**mod_jk**です。

mod_jkを構成するには、次の手順を実行します。

1. Apache Webサーバーバージョン2.2xを<http://httpd.apache.org/download.cgi> (英語サイト) からダウンロードします。
2. **mod_jk**を<http://mirror.metrocast.net/apache/tomcat/tomcat-connectors/jk/binaries/windows/tomcat-connectors-1.20.35-windows-i386-httpd-2.2.x.zip>からダウンロードします。
3. **mod_jk**をApache Webサーバーにインストールします。mod_jkの構成方法の詳細については、[こちら](#)を参照してください。
4. 次の要求をHP Anywhereサーバーにマッピングします。

```
/btoa/*  
/btoa-app/*
```

1. mod_jkを構成するには、jkプロトコルポートを構成する必要があります。GlassFishでのデフォルトのjkコネクタポートは8009です。このポートはdomain.xmlで構成できます。
2. Apache Webサーバーの/modulesフォルダーにファイルをコピーします。
3. すべての要求をHP AnywhereにリダイレクトするようにApacheを構成します。
4. Apache Webサーバーを再起動します。

SSLの構成

クライアントとWebサーバーの間、およびWebサーバーとアプリケーションサーバーの間のSSLを構成できません。SSLを構成するには、次の手順で**mod_SSL**モジュールを有効にする必要があります。

1. **httpd.conf**ファイルを開きます。
2. 次の行の**comment**タグを削除します。

```
LoadModule rewrite_module modules/mod_rewrite.so  
LoadModule SSL_module modules/mod_SSL.so  
Include conf/extra/httpd-SSL.conf
```
3. HTTPSを使用させるには、次の手順ですべてのHTTP要求をHTTPS要求にリダイレクトする必要があります。
 - 次のコードをファイルの末尾に追加します。

```
# Redirect HTTP to HTTPS  
RewriteEngine On RewriteCond %{HTTPS} off  
RewriteRule (.*) https://HTTP_HOST%{REQUEST_URI}
```
4. **conf/extra/httpd-SSL.conf** ファイルを開きます。
5. 次の行を、ファイルの末尾の</VirtualHost>行の前に追加します。

```
JkMount /btoa/* localAjp JkMount /btoa-app/* localAjp
```

6. 秘密キーと証明書を `/conf` フォルダにコピーし、次のように名前を変更します。
server.crt - 証明書
server.pem - 秘密キー

7. `conf/extra/httpd-SSL.conf` ファイルで、次の行の証明書のパスを変更します。

```
SSLCertificateFile "C:/Program Files (x86)/Apache Software  
Foundation/Apache2.2/conf/server.crt"
```

8. `conf/extra/httpd-SSL.conf` ファイルで、次の行の秘密キーのパスを変更します。

```
SSLCertificateKeyFile "C:/Program Files (x86)/Apache Software  
Foundation/Apache2.2/conf/server.pem"
```

9. Apache Webサーバーを再起動します。

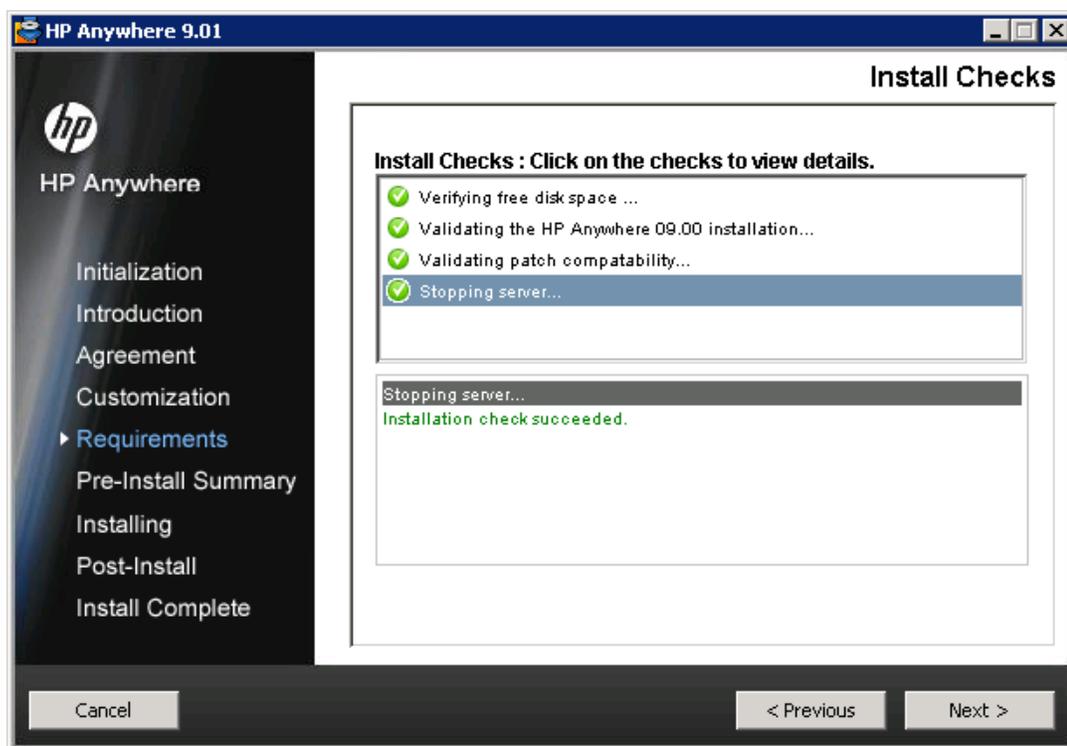
第4章

バージョン9.01へのアップグレード

前提条件: バージョン9.01をインストールするには、HP Anywhere 9.00がシステムに既にインストールされている必要があります。

バージョン9.01にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. アップグレードインストールファイルHPAW901_9.01_setup.exeを実行します。
2. インストールチェック段階で、インストールウィザードによって自動的にサーバーが停止されます。



3. インストール手順の続きを実行します。

注: インストールウィザードによって、バージョン9.01が自動的に9.00と同じディレクトリにインストールされます。

第5章

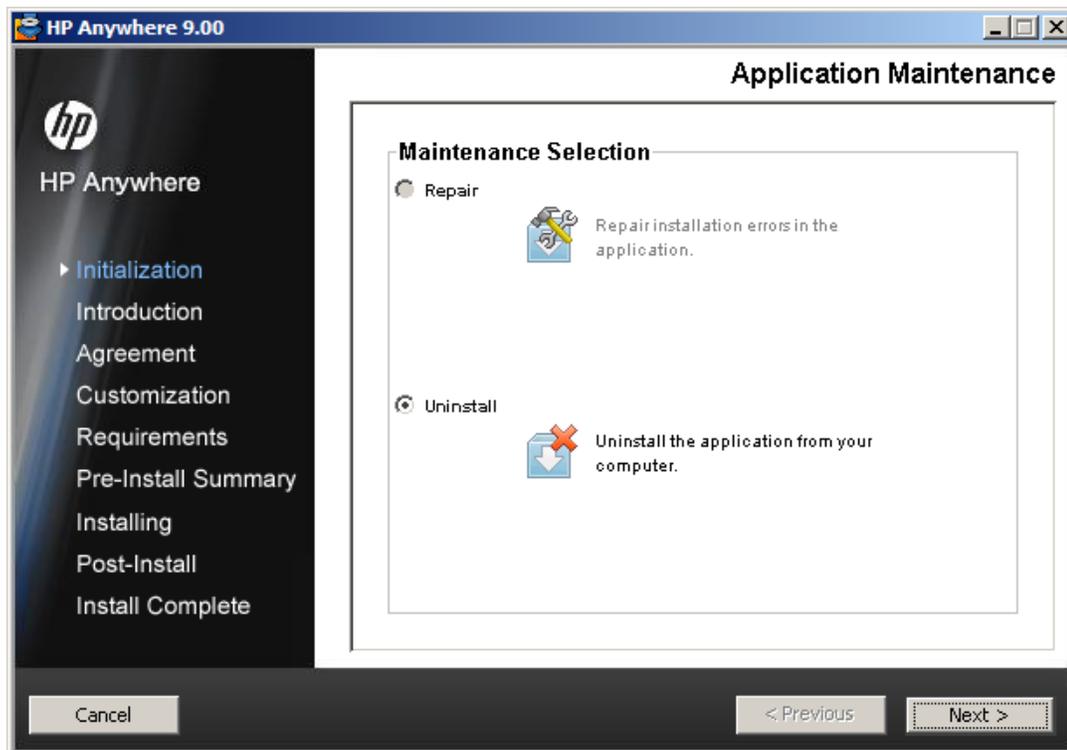
HP Anywhere サーバーのアンインストール

本項では、HP Anywhereバージョン9.00をアンインストールする手順と、バージョン9.01からバージョン9.00へロールバックする手順について説明します。

バージョン9.00のアンインストール

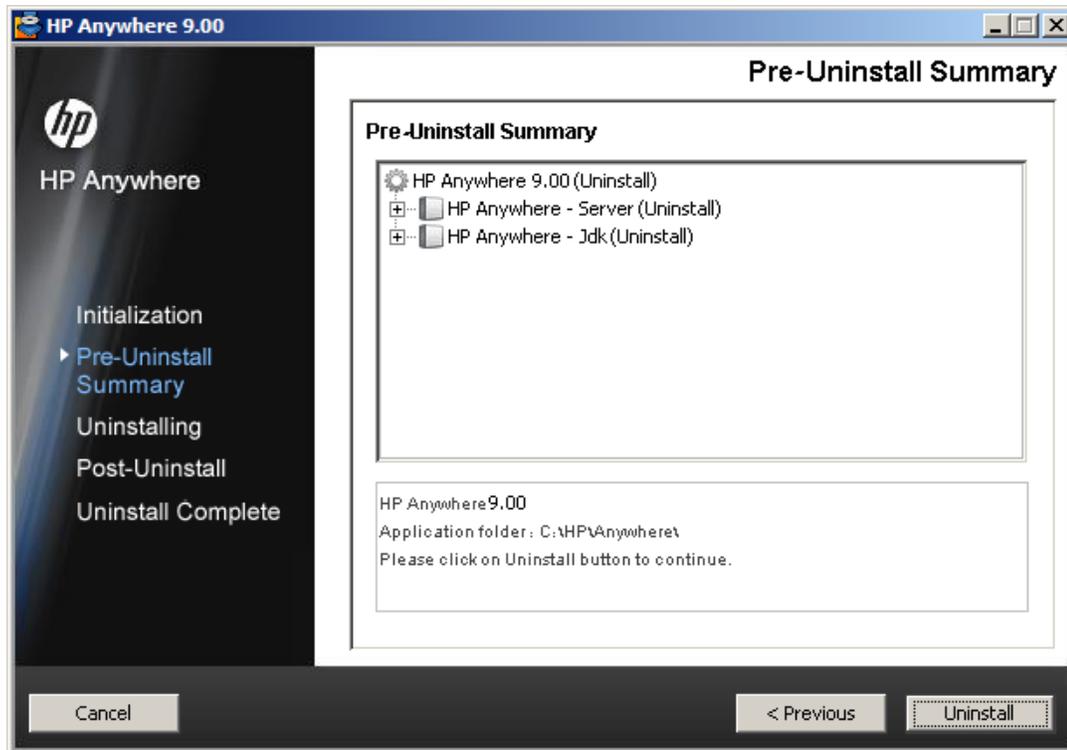
次の手順は、HP Anywhere 9.00サーバーのアンインストール方法を示します。

1. [スタート]メニューから、[すべてのプログラム] > [HP] > [HP Anywhere] > [Uninstall HP Anywhere] を選択します。
2. [Application Maintenance] ウィンドウが開きます。



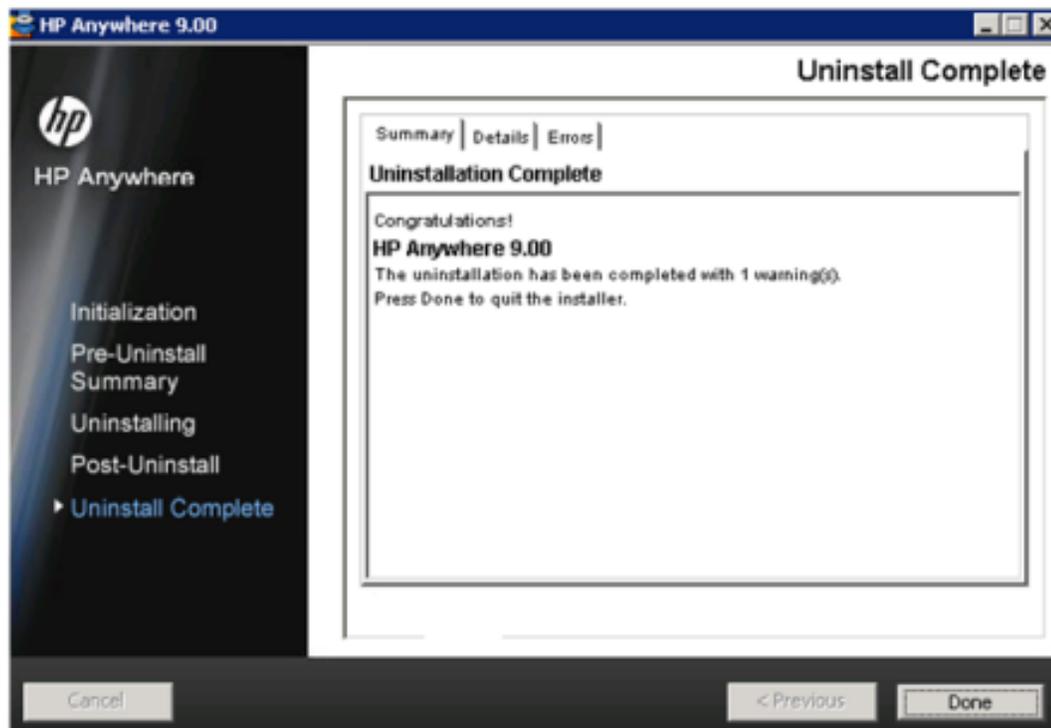
[Uninstall] を選択して [Next] をクリックします。

3. アンインストールされるコンポーネントの一覧がウィザードに表示されます。



[Uninstall] をクリックします。

4. アンインストールが終了すると、確認メッセージが表示されます。



[Done] をクリックして、アンインストールプロセスを完了します。

バージョン9.01からバージョン9.00へのロールバック

次の手順は、HP Anywhereバージョン9.01からバージョン9.00へのロールバック方法を示します。

1. [スタート]メニューから、[コントロールパネル] > [プログラムの追加と削除] > [インストールされた更新プログラムを表示]を選択します。
2. [未指定]カテゴリから[HPAW_9.01_MMR]を選択します。
3. アンインストールされるコンポーネントの一覧がウィザードに表示されます。
4. [アンインストール]をクリックします。
5. アンインストールが終了すると、確認メッセージが表示されます。

第6章

トラブルシューティングと制限事項

本項では、既知の問題について説明します。

LDAPの問題

問題: LDAPサーバーとの通信を確立できない。
ログに通信例外が記録される。

解決策: LDAPホスト、ポート、およびSSLモードの設定を確認します。

1. LDAPホストおよびポートが正しく構成されていることを確認します。
[System] > [Settings] > [User Management Configuration] > [External User Repository] を選択し、[ldapHost] および [ldapPort] 設定を確認します。
2. SSLモードが正しく構成されていることを確認します。LDAP接続に管理者ユーザーが必要かどうかを組織のLDAP管理者に問い合わせます。[System] > [Settings] > [User Management Configuration] > [External User Repository] を選択し、[enableSSL] 設定を確認します。
3. 適切なサーバー証明書がインストールされていることを確認します。次のコマンドを実行します。
<Configuration Managerのインストールディレクトリ>\java\windows\x86_64
\bin\keytool.exe -list -trustcacerts [-alias <証明書エイリアス>] -keystore <Configuration Managerインストールディレクトリ>\java\windows\x86_64\lib\security\cacerts -storepass changeit
4. LDAP接続に管理者が必要かどうかを組織のLDAP管理者に問い合わせます。[System] > [Settings] > [User Management Configuration] > [External User Repository] を選択し、次を確認します。[useAdministrator]、[ldapAdministrator]、[ldapAdministratorPassword] の各設定を確認します。

クライアントログインの問題

問題: 有効な接続 (緑) で、モバイルデバイスからHP Anywhereにログインできない。ユーザー名とパスワードが正しいのに「ユーザー名とパスワードが間違っています」というメッセージが表示される。

解決策: サーバーフィールドに完全なサーバー名 (マシン名) が使用されていることを確認します (IPアドレスのみは不可)。たとえば、HP Anywhereサーバーがmycompany.comドメインのserver01というマシンで動作している場合、サーバーフィールドには“server01.mycompany.com:8080”と指定する必要があります。

